

# 一原有徳展



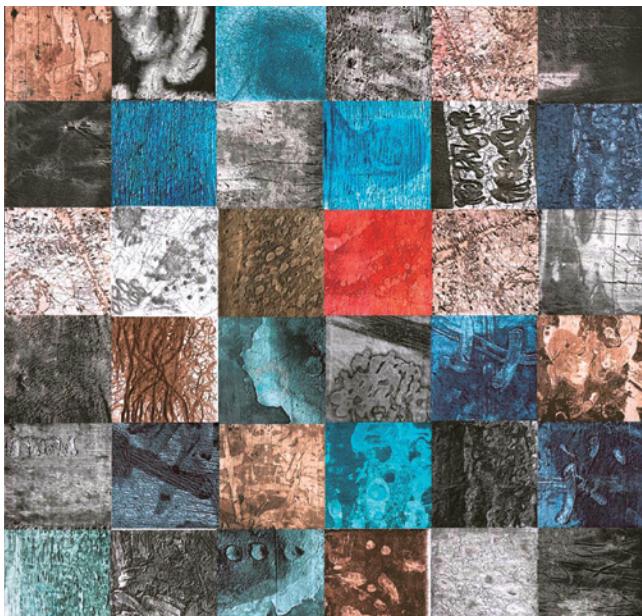
《X2-5》1963-79年 市立小樽美術館蔵

一原有徳は、3歳のとき一家で北海道真狩村に移住し、その幼少年時代を羊蹄山に抱かれた大自然の中で送りました。

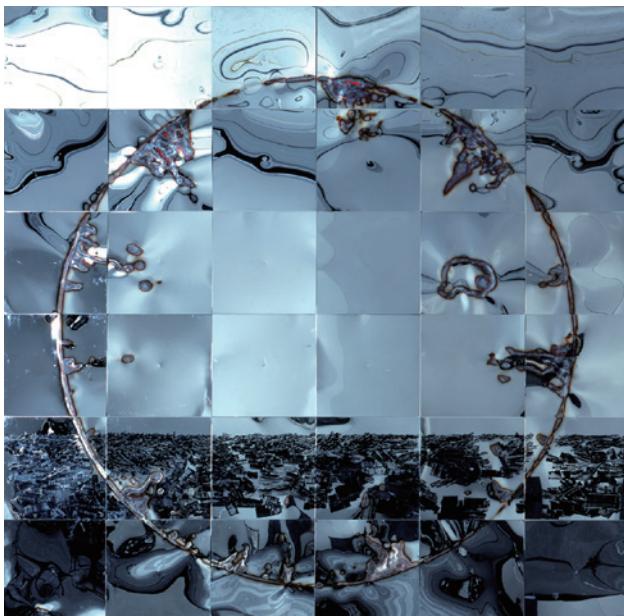
10年後の1923年、小樽に転居以降、この地で生涯を過ごします。小樽地方貯金局に勤務のかたわら、40代にはいってから油彩画の制作をはじめ、その後は、石版にのせられたインクの偶然の像を転写した「モノタイプ」と呼ばれる、一点刷りの版画の創作に没頭します。そして、版画表現の抽象的な偶然性とその可能性を追い求めて独創的な世界を築き上げました。

また、一原は登山家、俳人（俳号・九糸[郎]）としての顔を持ち、それぞれの分野でも大きな足跡を残しています。

本展では、市立小樽美術館所蔵の一原作品のうち、普段公開されることの少ない大型作品を中心、羊蹄山など北海道の山々をテーマとした作品を通して、独創的で観る者の想像力に訴えかける一原の版画の世界を展覧します。



《H96》1996年 市立小樽美術館蔵



《Com Zon 1992-II》1992年 市立小樽美術館蔵



《Com Zon 1992-I》1992年 市立小樽美術館蔵

## 市立小樽美術館 一原有徳記念ホール

一原有徳作品を多く収蔵している市立小樽美術館には「一原有徳記念ホール」があり、作品が常設展示されています。アトリエの一部を再現したコーナーでは、一原の創作活動を知ることができます。

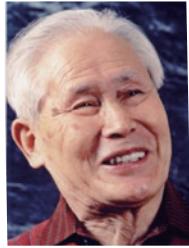


市立小樽美術館

〒047-0031

小樽市色内1丁目9番5号

tel.0134-34-0035



一原有徳（いちはら・ありのり） 1910-2010  
1910（明治43）年、徳島県生まれ。1950年代後半からは石版モノタイプを制作して版画家としての歩みを始める。その独特の作風から、「現代版画の鬼才」と評される。著作には、画集「ICHIHARA 一原有徳作品集」（1989年・現代企画室）ほか、著書に「小さな頂」（1974年・茗渓堂）、「あのころの山」（1976年・北海道撮影社）、「裸燈」（1990年・共同文化社）など。受賞歴には「北海道現代美術展」「北海道立近代美術館賞（1981年）、北海道文化賞（1990年）、地域文化功労者文部大臣表彰（1996年）、北海道功労賞（2001年）がある。神奈川県立近代美術館（1988年）、北海道立近代美術館（1998年）などで大規模回顧展が開催される。2010年、死去（100歳）。

## イベント

### ●市立小樽美術館学芸員によるギャラリートーク

2022年5月21日（土）14時開始（30分程度）

講師：山田菜月さん（市立小樽美術館学芸員）

参加無料（要観覧料）

### ●野瀬栄進ジャズピアノコンサート

2022年5月21日（土）19時開始（18時半開場）

出演：野瀬栄進さん（ピアニスト）

参加無料（要観覧料・事前申込[0136-44-3245]・定員30名）

## ニセコ・有島記念館 NISEKO.ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM

有島記念館は、「カインの末裔」「生れ出づる悩み」「或る女」などで知られる大正期の作家・有島武郎の人と作品、武郎が所有した農場の足跡を紹介しています。

ニセコ・有島記念館 〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地  
Tel 0136-44-3245

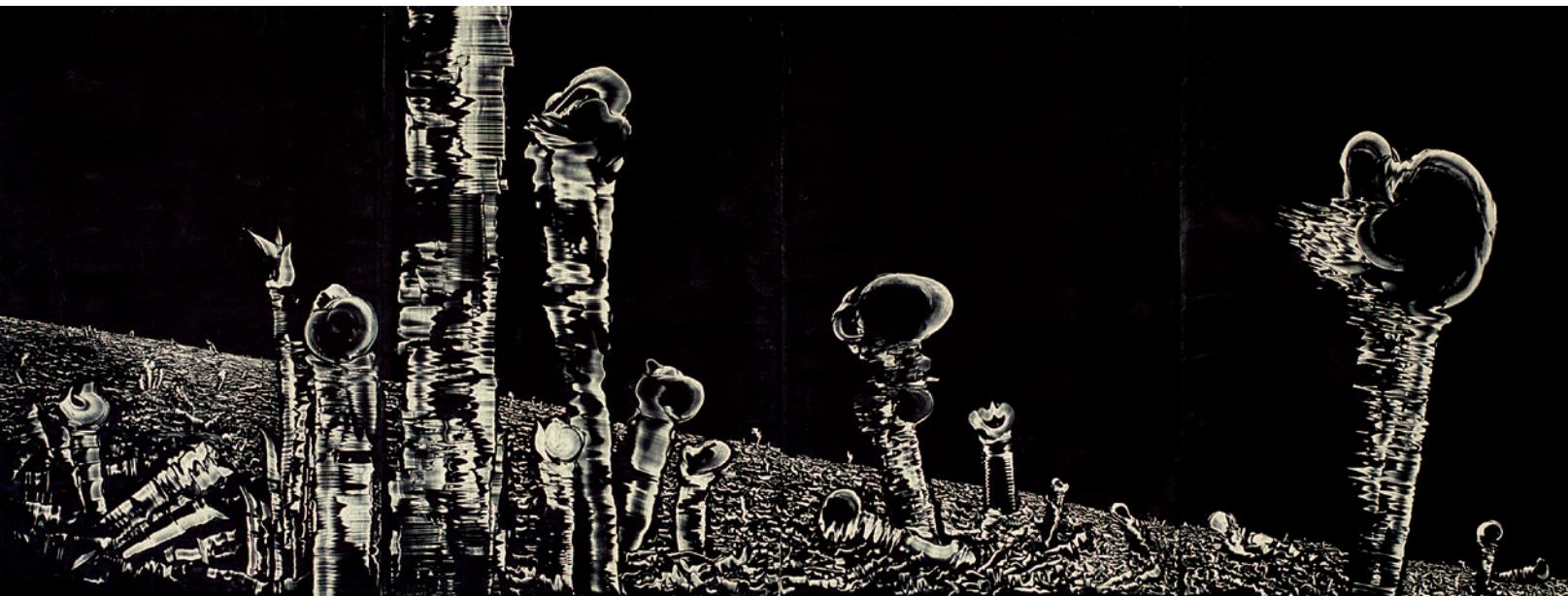
#### [交通アクセス]

自家用車 - 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間  
JR - ニセコ駅より徒歩約30分（約2.5km）、タクシー5分  
バス - 道南バス[俱知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分  
[駐車場] 自家用車用約30台・大型バス用約15台完備

ご購入は「<https://store.eishinnose.com/items/7545404>」Eishin NOSE Manhattan Trio  
¥3,000Uncertain Landscape  
Eishin NOSE + Satoshi TAKEISHI  
¥3,000

# 原徳展

Arinori.  
Ichihara



《sop(2)》1960.83年 市立小樽美術館蔵

4/29(金) — 7/10(日)

2022  
9:00～17:00（入場は16:30まで）毎週月曜休館  
ニセコ・有島記念館

○入館料

常設展観覧料のみで鑑賞可

常設展観覧料：一般500円（400円）／高校生100円

中学生以下と65歳以上のニセコ町民は無料

※（）は10名以上の団体料金

年間バスポート：一般800円、高校生200円

○主催

ニセコ・有島記念館

○協力

市立小樽美術館

